

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第117号(2016.12.1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 白川観音寺市長にお話を聞きました！

白川観音寺市長にお考えや取り組みを聞かせていただきました。

1. 日時 10月31日(月) 午後2時
2. 場所 観音寺市役所 市長応接室
3. 出席者 観音寺市長 白川 晴司 様  
かがわ自主ぼう連絡協議会 会長 岩崎 正朔、  
理事 田中 英昭、理事 安藤 正則

### 観音寺市の概要

平成17年10月11日に旧の観音寺市、大野原町、豊浜町が合併し「観音寺市」として発足。香川県の西南部に位置し、西は瀬戸内海の燧灘（ひうちなだ）に面し、沖合には伊吹島などの島しょを有している。南は讃岐山脈の雲辺寺山、金見山などを境に徳島県や愛媛県に接し、高知県にも近く、四国のほぼ中心に位置し、人口61,650人、世帯数24,596世帯（H28.10.1現）である。市内の見どころは銭形砂絵、豊念池堰堤、琴弾公園、一の宮公園など、市内全域で太鼓台（ちょうさ）が117台あり、秋祭り等で賑わう。特産品はいりこ、かまぼこ、麴、梨、レタスなどです。



### 市長のプロフィール

氏名 白川 晴司（しらかわ せいじ）  
生年月日 昭和20年11月20日  
学歴 昭和45年3月 学習院大学法学部卒業  
主な経歴 昭和62年4月～平成7年4月 香川県議会議員  
平成7年6月～平成17年10月 観音寺市長  
平成17年11月～現在 観音寺市長（合併後）

### Q1. 政治の道に入られたきっかけはどのようなことからですか？

- A. 35歳のころ、月原茂皓先生が観音寺に帰られた時に（政治に）興味をもち、3年くらい一緒にいろいろなところを回られるのをお手伝いしました。昭和58

年に月原先生が当選されてからは、さらに関心は強まり度々訪れた永田町、霞が関で政治とはこういうものだということを勉強させていただきました。41歳で県議会議員になり、その後観音寺市で難題が起きた折りに皆さんから強く推されて観音寺市長になり諸問題の解決に取り組んできたところです。

**Q 2. 市長の政治信条とまちづくりの特色についてお聞かせ下さい。**

- A. 私は、これまで「ひとが元気、まちが元気、やさしさと元気印のまちづくり」という基本理念のもと、平成22年には、いち早く「観音寺市交流定住促進計画」を策定し、交流人口・定住人口の増加に取り組んできました。加えて平成25年策定の「観音寺市総合振興計画後期基本計画」においては、「人口減少・少子化克服プラン」「人が集まるまちの再興プラン」「市民の力を結集するプラン」という3つの戦略プランを掲げ、市民の皆さまと対話を重ねながら「ひとづくり」「まちづくり」に取り組んできたところです。



そして、これからの地方創生の旗印となる「観音寺市人口ビジョン」及び「観音寺市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を住民代表、産業界、大学、金融機関、労働団体など、各方面の皆さまのご協力をいただき、平成27年10月に策定しました。そのなかで地方創生に向け新たに「挑戦」し、目指すべき未来の観音寺をつくるため、観音寺の7つのアルファベットに対応する、「K（ケー）」子育て・教育、「A（エー）」安心、「N（エヌ）」にぎわい、「O（オー）」おもてなし、「N（エヌ）」ネットワーク、「J（ジェイ）」女性、「I（アイ）」いきがい、をキーワードとした7つの基本目標を掲げ、これらの目標の達成に向けて、まち・ひと・しごと創生のための具体的な施策や、新しい取り組みに着手しているところです。

しかしながら、行政の力だけで地方の元気を取り戻すことはできません。市民の皆さまが、それぞれの分野で地方創生の担い手となって活躍していただき、官民が一体となって、観音寺市の創生に向けた歩みを進めたいと考えています。

**Q 3. 観音寺市は四国のまんなかになります、周辺と併せて三市の連携についてお聞かせください。**

- A. 本市と、徳島県三好市、愛媛県四国中央市は、県は違いますが、四国のちょうど真ん中に位置しており、住民の行き来が盛んで市を越えて通勤する人も多い

ことから、非常に結びつきの強い地域です。

平成 20 年には、3 市が県を越えたネットワークの確立や、県境における四国中央地域の活性化を目的として、「四国まんなか交流協議会」を設置し、3 市の市民が交流を深める「市民交流事業」や、それぞれの地域が持つ共通の課題の解決のために各市長が議論する「市長サミット」、3 市共同によるケーブルテレビ番組の制作、広域観光マップの作成など、様々な連携を図っているところで

す。  
このようにつながりを深めるなか、平成 22 年 3 月には「災害時相互応援に関する協定書」を締結し、各市が独自では応急措置が実施できない災害が発生した場合に、3 市が連携して「応援隊」と称する市職員を相互に派遣し活動する体制が整いました。

これからも職員相互の交流はもちろん、様々な場面において連携を深め、四国のまんなか地域を盛り上げていきたいと考えています。

**Q 4. 少子高齢化においてもまちの活力を維持させるために、どのように取り組まれていくのかお聞かせください。**

- A. 人口減少と少子高齢化の波は、我々の想像をはるかに超えた大きなうねりとなり、全国の地方自治体に押し寄せています。人口流出の抑制や少子化対策、新たな雇用の創出などの取り組みを推し進めていくことが必要不可欠と考えています。

観音寺市の未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境を整備することが、まちづくりの原点であると考えております。そのために義務教育終了までの保険診療に係る自己負担額の無料化等々に取り組んでいるところです。

また、誰もがいきいきと暮らし続けることができる地域をつくるためには、人と人、地域と地域の絆をさらに強くし、豊かなコミュニティの形成を図ることが重要であると考えます。人と人が世代を越えて交流し、地域の絆を深める地域サロン制度を立ち上げました。それぞれの地域の創意工夫にあふれた活動が市内全域に広がりを見せています。

街の活力を維持していくためには、にぎわいづくりも重要な要素の一つです。来年 4 月から、建設中の新市民会館が街のにぎわいの核になるものとして期待しています。文化芸術活動の拠点として活用することにより、観音寺市の新しいにぎわいの創出を牽引するものと考えております。

また、学校再編後活用されていない紀伊小学校校舎を観音寺市の考古学、歴史学、民俗学及び自然科学などに関する資料を収集、展示し、地域の歴史や文化を次世代に伝える「ふるさと学芸館」として生まれ変わらせ、地域の人材を講師に迎えて小中学生の体験学習や、幅広い世代の市民が参加できる教養学習講座などを開催し、人づくり、生きがいづくりの場としても活用していきます。それぞれの地域が持つまちの良さを磨きつつ、重点施策を推し進め、人口減少

にも対した持続可能なコンパクトシティの構築を実現していきます。  
さらに、「やさしさと、元気印のかんおんじ」を次の世代に自信を持って引き継ぐことができるよう、市民の皆さまと一緒に考え、実践し、失敗を恐れることなく「挑戦」をしていきたいと考えています。

**Q 5. 自主防災組織の活性化に向けた取り組みについてお聞かせください。**

- A. 本市の自主防災組織活動の現状は、平成 28 年 4 月時点のカバー率が 91.59%、177 組織が組織されています。市としては、自主防災組織の活動を推進するため、3 つ事業を実施し、自主防災組織の育成及び活動に対する支援を行っています。

まず、「観音寺市防災資機材助成事業」では、結成の際に世帯数に応じ各種防災資機材の支給を行い結成当初の組織の負担を軽減し、地域の防災活動の入口である自主防災組織結成を推進しております。

次に「観音寺市自主防災組織活性化事業」では、自主防災組織が、ヘルメット、発電機、投光器、消火器、担架等の防災資機材を購入する経費を、1 回限り 10 万円を上限として補助しています。また、自主防災組織が、図上訓練、

初期消火訓練、救出・救護訓練、炊き出し訓練等の訓練を、同時に二種類以上実施した際に発生した経費を補助しています。自主防災組織の世帯数によって補助額は変わりますが、3 万円を上限としています。

最後に、「観音寺市自主防災力強化事業」では、小学



校区を単位として、地域の子供や保護者と一体となつて行う実践的な防災訓練に要した費用を、1 回限り 50 万円を上限として補助しています。加えて、防災活動の指導者育成のために、防災士資格の取得に必要な経費をうち、2 万円を上限として補助を行っています。

近年大規模な災害が頻発する中、地域での防災活動への意識が高まっており自主防災組織の活動が注目されていると感じており、本市でも共助としての要である自主防災組織のより一層の活性化、また早急にカバー率 100%を目指して自主防災組織の支援を行うことにしています。



**Q 6. 市内の防災対策の現況（過去の災害事例を考慮、防災無線等の整備含め）についてお聞かせください。**

- A. 合併前の1市2町においては、旧観音寺市では移動系無線と消防無線、旧大野原町ではオフトーク放送、旧豊浜町では同報系アナログ防災行政無線により情報伝達していました。市全域に一斉に防災情報を伝達できるよう、平成26・27年度に同報系デジタル式防災行政無線の工事を行い、平成28年4月1日より運用を開始しています。地区公民館や福祉施設等へは戸別受信機を設置し、情報伝達が効果的に行えるようにしているところです。

また、台風災害に備えて、土砂災害の危険が高まった地域には、避難準備情報等を発令し、空振りを恐れることなく当該地域住民へ早めに避難を呼びかけるようにしています。

大災害への備えとして、県が発表した備蓄目標になるべく早い段階で到達するよう食糧等の備蓄を進めています。

**Q 7. 公共・教育施設の耐震化及び防災教育の取り組みについてお聞かせください。**

- A. 公共・教育施設の耐震化について、

まず学校関係ですが、地域防災計画で地震津波の避難所として指定されているのは、中学校5か所、小学校11か所、幼稚園3か所です。避難所に指定されている施設の屋内運動場については、平成18年度から平成24年度にかけて耐震工事を実施しているか、あるいは昭和56



年以降に建設されたもので、現在の耐震基準をクリアしています。

また地震時の非構造部材の落下防止の為、屋内運動場などのつり天井撤去工事についても、平成28年度中に終了予定です。

公民館については、観音寺市中央公民館を中心として、13の地区公民館及び分館が4館あります。うち、地震の避難所として指定されている公民館は、7の地区公民館2分館あり、すべて耐震基準をクリアしています。

防災教育については、学校における防災教育は安全教育の一環として、各教科、道徳や特別活動、総合的な学習の時間など、全教育活動を通じて実施しています。

東日本大震災以降、学校では毎年、「危機管理マニュアル」、「地震・津波防災対策マニュアル」を見直し、震災発生時の初期行動や避難方法等についての避難訓練を年間2~3回程度計画的に実施したり、避難時の保護者への子どもの引き渡しについて、学校や幼稚園で実地訓練を行ったりしています。

例えば、ある小学校では、不審者対応、地震や火災など、年間3回の避難訓練を実施しています。地震の避難訓練では、実際の緊急地震速報の音や携帯電話用の着信音を流し、実際に起こった場合、児童がよりスムーズに対応できるよう工夫しています。また、毎日の集団下校時には、「自分の命は自分で守る」ことを共通理解させ、どのように行動することが危険を回避することにつながるか常に意識できるようにしています。

また、ある中学校では、防災の手引きを活用して、4月と11月の年2回と必要に応じてその都度、防災教育を行っています。避難訓練の際には、シューターを活用した訓練を実施したり、防災担当や管理職からの講話を聞いたりすることで、防災意識を高めるよう努めています。

さらに、どの学校、園においても、香川県のシェイクアウト訓練に積極的に参加しており、東南海地震・南海地震への危機意識を持たせています。

防災教育の推進に当たっては、家庭や地域社会との連携を深めることにより、子どもや家庭での防災意識の高揚に努めているところです。

#### **Q 8. かがわ自主ぼう連絡協議会に望まれることがありますか。**

- A. 観音寺市内においても、これまでかがわ自主ぼう連絡協議会よりフォローアップ事業のなかで自主防災組織あるいは小学校区単位の防災訓練にお力添えをいただきました。これからも、かがわ自主ぼうの持つ防災対策上のスキルで新しいリーダーの養成、単位組織の活性化にご助力をいただきたいと思います。

また、「防災・減災の輪」、訓練指導等をとおして、防災意識の向上を図るための様々な情報の発信をお願いします。

---

最後になりましたが、白川市長さん、お忙しいなか貴重なお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。

市長さんから「想定外に対するマニュアルがない」というお話がありましたが、私共もさらに防災・減災対策の充実を図るよう邁進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

かがわ自主ぼう連絡協議会 理事 安藤正則

かがわ自主ぼう連絡協議会事務局より、最近の活動紹介とお知らせです。

## 1. 香川県自主防災組織リーダー研修会開催される

本年度は11月19日（土）～11月20日（日）にかけて実施。

初日は、消防学校にて「実技訓練」と、熊本地震の体験というテーマで「防災講演」を行なった。

◎実技訓練は4種目

### ①クラッシュ症候群対策訓練

- ・バールのみで救出
- ・ジャッキ類による救出
- ・チェーンブロックによる救出

### ②水難救助訓練

- ・河川において流されている人の救助
- ・海においておぼれている人の救助

### ③要配慮者等の避難支援訓練

- ・車イスへの乗せ方
- ・車イスごと階段（想定）避難
- ・モツコタイプ（ロープで作った網状のもの）による避難

### ④日常品を使った応急手当訓練

- ・ワイシャツの活用
- ・買い物袋の活用
- ・ダンボール片の活用



この実技訓練の内容はハイレベルなものでありますが、この指導はすべて「かがわ自主ぼう」のメンバーで対応しました。

◎熊本地震の体験談を熊本市立秋津小学校の五嶋先生がお話してくださいました。

五嶋先生とは、半年ぶりの再会で言葉をかける前より涙の連続でした。

私達が香川県炊き出し隊として赴いた秋津小学校で我々の窓口となり、大変お世話になった先生です。





- 印象に残ったお話し -

- ・ 悲しさ、大変さ、車中泊や避難所生活などの不便さを実感として知ることができた。
- ・ 日本はよい国、日本人本来の姿は、世のため、人のために尽くす喜びに生きる姿。
- ・ 夫は激震の中、必死に私を守ってくれた。
- ・ 毎日水が出て、電気が使えて、ご飯が食べられて、雨漏りがしない家で家族が仲よく健康で、仕事ができることが、こんなにありがたく幸せか気づいた。



## 2. 赤い羽根共同募金活動、11月は「法人強化月間」!

自治会加入率が低下、これによって共同募金の成果も右肩下がりの現状です。

これを打破するため、法人募金で救済ということで丸亀市全域にわたって、企業、商店、病院等かけずり回っての活動を展開しています。

訪問させていただくと、人間の器量の大きさがよく分かるようになりました。 <岩崎>



## 編集後記

今月の防災減災の輪は、観音寺市長 白川様をインタビューさせていただきました。ありがとうございました。